

## 近畿圏広域地方計画協議会 第6回幹事会

1. 開催日時：平成22年6月23日（水）13:30～15:00

2. 場所：近畿地方整備局 新館 A会議室

3. 出席者：別紙参照

### 4. 議事要旨

#### (1) 近畿圏広域地方計画の取組状況の公表について

- ・広域地方計画の決定から1年に満たない時期であるが、計画1年目の状況として資料をとりまとめた。他圏域の広域地方計画と同様のスケジュールで、今月末に公表するようになりたい。
- ・文化財の防災については、「(文化首都圏プロジェクトの)様々な取組を進める前提として、きちんとした防災の取組が必要」との有識者会議における意見を取り入れて、平城遷都1300年祭のようなイベントだけでなく、貴重な文化財をしっかりと守る取組も行っていることを示す趣旨で取り上げた経緯がある。今後も、この取組に関する情報の提供をお願いしたい。
- ・観光関係の広域的な取組としては、3府県共同で取り組む山陰海岸ジオパークの取組と近畿一円を対象とするビジット・ジャパン・キャンペーンがある。観光関係の指標については、各府県の協力を得て、今年度からきめ細かな指標づくりをしたので、今後データの蓄積が進めば、入り込み客数以外の数字がだせるものと考えている。
- ・説明資料(資料1-2)の「次世代産業を創造する『知の拠点』プロジェクト」では、先日公表された成長戦略の趣旨を踏まえて、「国際競争力」や「イノベーション」等の視点から記述することを提案したい。また、国際競争力を示す指標としては、例えば特定分野の論文引用数などが考えられる。
- ・現在の成長戦略に沿った話題で言えば、水ビジネスの取組が公表資料本文(資料1-1)にも記載されており、これを説明資料(資料1-2)に記載して頂きたい。
- ・「大阪湾ベイエリア再生プロジェクト」では、昨年度新たに稼働が始まった工場のところで、個別の企業名が記載されているが、他企業との関係から明確に記載しない方がよい。
- ・鳥取自動車道の開通の関係は、「関西の魅力巡りプロジェクト」に観光面の話題で記載されている。一方で、鳥取自動車道の物流面の整備効果から「広域物流ネットワークプロジェクト」にも記載可能と思うが、残念ながら具体的に記載すべき事項が把握されておらず、今回は原案のとおりでいいと考えている。なお、今後、山陰道の開通等で、境港と関西が繋がることになれば、物流面で何か記載できることがあると期待している。来年度以降、

記載内容の検討では配慮頂きたい。

- ・公表資料本文（資料１－１）「広域物流ネットワークプロジェクト」の港湾機能の強化の記述について、文末で「・・・期待されている。」との表現であるが、現在も進行中であるスーパー中枢港湾の取り組み自体を内容として書いてはどうか。
- ・「CO2削減と資源循環プロジェクト」に記載されている堺市の環境モデル都市に関連する取組、例えばメガソーラーや自転車など、計画どおり順調に進んでいる。
- ・今後、近畿圏広域地方計画協議会会長の了解後に公表となるが、事実誤認等の修正があれば事務局まで連絡頂きたい。

## （２）関西ブランド力向上の取組について

- ・関西ブランドの創造は、広域地方計画の１丁目１番地に位置する取組でありながら、中心となる機関が決まっていない。関係機関が協力して進めていく必要がある。
- ・資料２－１の記述は、「構成機関で進めていく」という形ではなく、「何をする」が重要なので、「設立する予定」で締めるべき。
- ・「できることからやっていく」、「市民がそれぞれ分かってやっていく」のが重要。
- ・一歩ずつ取組を前進させるのが重要。各機関と連携して進めたい。
- ・検討会では、統一テーマを「茶の文化」や「水」で検討しており、モデル実施で扱うテーマとして有力であるが、他に適切な候補があれば立候補してもらいたい。
- ・準備会を設立して取組ということであるが、観光分野であれば、関西各地に観光コンベンション協会が既にある。この場に参加している企画部門だけで取組を進めるのは難しい面もあり、プロといえる人々との取組と重複のないように取り組む必要があると思う。
- ・専門分野の団体との連携は重要である。この取組を進めるにあたり、連携が必要となれば準備会で調整したい。
- ・準備会では、参加メンバーを企画部門に固定させるものではなく、適宜機動的に出入りしてもらいたい。
- ・ブランドを作った後の展開こそ、各機関の知恵を集める必要がある。関係機関とも力を合わせたい。
- ・関西ブランドの推進について、幹事会で了承された。